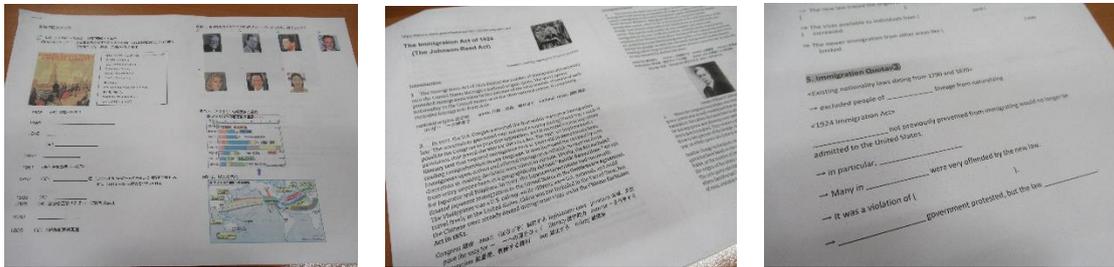


高1 英語・世界史融合授業

本日は高校1年生の英語と世界史の融合授業をご紹介します。これは英語の「サッコ・ヴァンゼッティ事件」と世界史の「移民の歴史」をテーマとした融合授業であり、英語の教員と世界史の教員が合同で「アメリカの移民」についての授業を展開しました。英語科としては英文を通して事件の内容や裁判の推移を正確に読み取れるようになり、また調べ学習の資料として英文を扱う力を養うことが目的でした。また世界史としては1920年代のアメリカ社会の情勢の理解を深めるとともに、「移民の国」「自由の国」であるアメリカの各移民の歴史的背景や現在の問題について、調べ考えることが目的でした。

生徒たちは事前に年表や資料が載った世界史の授業プリントと、移民に関する英語の文献資料およびワークシートを配布されており、それを使って予習をした上で授業に臨みました。



(授業内で使用したプリント)

本日の授業では、こうした予習課題を踏まえた上での講義が行われました。通常の英語の授業ではグレード別に分かれた分割授業が行われていますが、本日はグレードや一般生・帰国生の別なく合同での授業となりました。世界史教員も英語を使っての講義を行い、The Immigration Act of 1924などの英文資料を参考に、移民法（排日移民法）の内容や成立した時代背景の理解が目指されました。生徒たちは普段とは違った授業スタイルや教科を越えた内容の繋がりに目を輝かせていました。



(講義の様子)